

## Press Release

平成22年1月15日  
医薬食品局血液対策課  
(担当・内線) 課長 亀井 (2900)  
企画官 光岡 (2901)  
(電話代表) 03(3595)2395  
(F A X) 03(3507)9064

報道関係者 各位

### フィブリノゲン製剤納入先医療機関の追加調査について

平成16年12月9日に公表したフィブリノゲン製剤納入先医療機関を対象として、平成19年11月7日付で実施した追加調査の結果について、平成22年1月1日までに回収した医療機関からの回答を取りまとめた状況をお知らせいたします。

#### 1 回答状況

- (1) 追加調査実施期間 平成19年11月7日～12月5日(※1)  
(ただし、現在も回収中)

(※1) (1)の調査以降、平成20年8月25日及び平成21年1月16日にも元患者の方へのお知らせ状況等について再度調査を行っており、(3)回答施設数以降はそれらの結果を反映したものである。

- (2) 追加調査対象施設数 医療機関 6,610施設  
(平成16年公表施設のうち、所在地等が不明であった施設を除いた医療機関)

#### (3) 回答施設数

- 平成16年公表時に存続していた5,397施設のうち、5,289施設(98%)から回答があった。
- なお、このほか平成16年公表時に廃院等していた1,213施設のうち、500施設から回答があった。

#### 2 主な調査結果

- (1) 投与の年月について回答があった医療機関数と元患者数
- |       |                   |
|-------|-------------------|
| 医療機関数 | 893施設             |
| 元患者数  | 12,913人 (投与年別は別表) |
- (2) 上記以外に、過去に投与の事実をお知らせしたという記録が残されているが、現在では投与の年月は特定できないとする回答があった医療機関数と元患者数
- |       |      |
|-------|------|
| 医療機関数 | 88施設 |
| 元患者数  | 275人 |
- (3) (1)と(2)の合計
- |       |           |
|-------|-----------|
| 医療機関数 | 963施設(※2) |
| 元患者数  | 13,188人   |

(※2) 厚生労働省ホームページ「C型肝炎ウイルス検査受診の呼びかけ(フィブリノゲン製剤納入先医療機関名の再公表について)」の公表医療機関等リスト上の該当医療機関の「備考」欄に、「フィブリノゲン製剤を投与されたことが判明した元患者の方がいるとの報告あり。」と記載した。

#### (4) 元患者の方への投与の事実のお知らせの状況

		元患者数
お知らせした		7,447人 (56%) (※3)
お知らせしていない		5,741人 (44%)
理由	投与後に原疾患等により死亡	1,962人 (15%)
	連絡先が不明又は連絡がつかない	2,215人 (17%)
	肝炎ウイルス検査の結果が陰性	417人 (3%)
	今後お知らせする予定である	206人 (2%)
	その他(未記入含む)	941人 (7%)
合計		13,188人

(※3) 元患者の方に一人でも投与の事実をお知らせした医療機関は798施設であった。

## 投与の年月について回答があった元患者数の投与年別の内訳

投与年	人数
昭和39年	0人
40年	7人
41年	8人
42年	12人
43年	15人
44年	18人
45年	19人
46年	22人
47年	25人
48年	35人
49年	48人
50年	49人
51年	64人
52年	86人
53年	124人
54年	199人
55年	293人
56年	349人
57年	474人
58年	831人
59年	1,333人
60年	1,659人
61年	2,331人
62年	2,812人
63年	1,653人
平成 元年	182人
2年	111人
3年	82人
4年	36人
5年	25人
6年	11人
計	12,913人

## (5) 診療録等の保管状況

平成6年以前の診療録等が次のいずれかにより保管されている施設数  
(括弧内は調査対象施設数に対する割合)

2,058施設 (31%) (※4)

## (内訳) (※5)

診療録 (カルテ)	1,530施設 (23%)
手術記録あるいは分娩記録	1,600施設 (24%)
製剤使用簿	138施設 (2%)
処方箋	140施設 (2%)
輸液箋あるいは注射指示箋	273施設 (4%)
レセプトの写し	80施設 (1%)
入院サマリーあるいは退院サマリー	292施設 (4%)
その他の書類	291施設 (4%)

(※4) 平成16年の調査では「昭和63年6月30日以前にフィブリノゲン製剤を投与した記録 (診療録、使用簿など) が保管されていますか。」との設問であったのに対し、今回の調査では、「平成6年以前のカルテ等の各種書類が保管されていますか。」との設問であったため、保管していると回答した施設の割合が異なったものと思われる。

(※5) 厚生労働省ホームページ「C型肝炎ウイルス検査受診の呼びかけ (フィブリノゲン製剤納入先医療機関名の再公表について)」の公表医療機関等リスト上の「カルテ等の有無」欄に、平成6年以前のカルテ等の記録が一部でも保管されている場合、△印を付していたが、さらに保管されている記録の保管期間、保管状況等を記載した。

## Press Release

平成22年2月12日(金)  
医薬食品局総務課医薬品副作用被害対策室  
室長補佐：岡村 (内線) 2717  
管理係長：近藤 (内線) 2718  
(直通) 03-3595-2400

### C型肝炎訴訟の和解について

本日、高松地方裁判所において、下記のとおり和解が成立しましたので、お知らせします。

平成20年1月以降、同地裁に係属している原告(患者数1人)についての和解。製剤はフィブリノゲン製剤、症状は慢性肝炎である。

(参考)

○和解等成立人数\*1 1401人

○新規提訴等人数\*2 1614人 (2月10日現在)

\*1「和解等成立人数」は、今回の和解成立者は含まず、これまでに和解が成立した人数(患者数)である。また、調停が成立した4人を含む。

\*2「新規提訴等人数」は、救済法施行後に提訴等し、訴状等が国に送達された人数(患者数)である。このうち、1193人は既に和解等が成立している。

## Press Release

平成22年1月15日  
医薬食品局血液対策課  
(担当・内線) 課長 亀井 (2900)  
企画官 光岡 (2901)  
(電話代表) 03(3595)2395  
(F A X) 03(3507)9064

報道関係者 各位

### 血液凝固因子製剤の納入先医療機関の調査について

血液凝固因子製剤の納入先医療機関を対象として、平成20年2月5日付で実施した血液凝固因子製剤の投与実態等の調査の結果について、平成22年1月12日までに回収した医療機関からの回答をとりまとめた状況についてお知らせいたします。

#### 1. 調査等の状況

(1) 調査実施期間 平成20年2月5日～平成20年3月14日  
(ただし、現在も回収中)

(2) 対象製剤 28製剤

(3) 対象製剤納入企業数 12社(現在の存続会社は6社)

(4) 対象施設数

- ・企業から提出された対象製剤の納入先施設数 2,899施設(名称がカタカナのみの施設や不明施設等を含む)
- ・このうち、所在地等が不明であった施設を除いた2,630施設に調査票を送付

(5) 回答施設数

- ・調査票を送付した2,630施設のうち、2,442施設(93%)から回答がありました。  
(なお、118施設(4%)は廃院・住所不明等により調査票が未達でした)

## 2. 調査結果の概要

### (1) 施設ごとの血液凝固因子製剤の投与の実態

A. 全て血友病の患者のみに投与した	921 施設 (34 施設)	32%
B. 書類等により製剤を患者へ投与した事実がないことを確認した	162 施設 (1 施設)	6%
C. 製剤を患者に投与したかどうか確認できない	775 施設 (8 施設)	27%
D. 血友病の患者にのみ製剤を投与したかどうか確認できない	437 施設	15%
E. 血友病以外の患者に製剤を投与したことを確認した	190 施設	7%
F. 未回答の施設	70 施設	2%
G. 文書が到達せず、他の情報も存在しないため分類不能	75 施設	3%
H. 住所等不明により文書を送付できなかった施設 (カタカナ名のみ及び名称不明含む)	269 施設	9%
<b>合 計</b>	<b>2,899 施設</b>	

※ かつこ内の数字は、調査票が未達であった 118 施設のうち、平成 8 年調査結果等の情報により分類された施設数。

この表のうち、C～Hの分類に該当する施設を、血友病以外の患者に血液凝固因子製剤を投与した可能性がある施設 (1,816 施設) として、ホームページで医療機関名等を公表しました。

### (2) 血友病以外の患者への血液凝固因子製剤の投与実態

血友病以外の傷病で血液凝固因子製剤の投与が判明した医療機関数と元患者数

- ◆ 医療機関数 190 施設
- ◆ 元患者数 1,758 人

(なお、元患者数については、複数の製剤を重複して投与されている方もおられることから、集計上、のべ人数としている)

## 【内訳】

### ① 加熱・非加熱別の投与実態

- ◆ 非加熱製剤 1,447 人※ (82%)
- ◆ 加熱製剤 311 人 (18%)

※ なお、非加熱血液凝固因子製剤の投与実態を調査した平成 13 年調査の時点では、製剤の投与を受けたと特定された人数は 1,754 人であった。

### ② 製剤の種類ごとの投与実態

- ◆ 第Ⅷ因子製剤 161 人 (9%)
- ◆ 第Ⅸ因子製剤 1,593 人 (91%)
- ◆ その他製剤 4 人 (0%)

### ③ 対象製剤ごとの投与実態

非加熱第Ⅷ因子製剤	1 コンコエイト	78 人	非加熱第Ⅸ因子製剤	15 クリスマシン	983 人	
	2 プロフィレート	3 人		16 PPSB-ニチャク	218 人	
	3 コンファクト 8	4 人		17 コーナイン (ミドリ十字)	7 人	
	4 ヘモフィル S	1 人		18 コーナイン (カッター)	72 人	
	5 ヘモフィル H			19 プロブレックス	29 人	
	6 クリオプリン	5 人		20 ベノビール		
	7 コーエイト	6 人		21 クリスマシン HT	45 人	
	8 ハイクリオ	39 人		22 PPSB-HT「ニチャク」	177 人	
加熱第Ⅷ因子製剤	9 コンコエイト HT	9 人	加熱第Ⅸ因子製剤	23 ノバクト F		
	10 コンファクト F	14 人		24 コーナイン HT	14 人	
	11 ヘモフィル S-T			25 プロブレックス ST	48 人	
	12 ヘモフィル H-T			その他製剤	26 オートブレックス (非加熱)	
	13 コーエイト HT	1 人			27 ファイバ「イムノ」	2 人
	14 ハイクリオ HT	1 人		28 オートブレックス (加熱)	2 人	
単純合計 (重複あり)				1,758 人		
重複投与を除く人数				1,651 人		

### (3) 元患者の方へのお知らせの状況

患者総数 (重複投与を除く)	1,651 人	割合
お知らせした	436 人	26%
お知らせしていない	1,215 人	74%
投与後に原疾患等により死亡	(846 人)	(70%)
連絡先が不明又は連絡がつかない	(148 人)	(12%)
B型・C型肝炎陰性であることが判明したため	(31 人)	(3%)
今後お知らせする予定	(174 人)	(14%)
その他 (未記入含む)	(16 人)	(1%)

(別表)

投与年について回答があった元患者数の投与年別の内訳及び特定製剤の投与年別の内訳

投与年	人数				
	28製剤 合計	特定製剤*			
		クリスマシン	PFSB- ニチャク	コーナイン (ミドリ十字)	クリスマシン HT
昭和47年	0人		0人	0人	
昭和48年	0人		0人	0人	
昭和49年	4人		4人	0人	
昭和50年	4人		4人	0人	
昭和51年	7人	0人	7人	0人	
昭和52年	4人	0人	4人	0人	
昭和53年	68人	56人	0人	7人	
昭和54年	77人	61人	12人	0人	
昭和55年	131人	112人	7人		
昭和56年	150人	118人	5人		
昭和57年	221人	156人	25人		
昭和58年	200人	148人	15人		
昭和59年	176人	108人	21人		
昭和60年	167人	122人	13人		0人
昭和61年	77人	42人	6人		5人
昭和62年	22人	6人	0人		3人
昭和63年	27人	2人	3人		1人
昭和64年 ／平成元年	24人				14人
平成2年	12人				8人
平成3年	3人				3人
平成4年	4人				2人
平成5年	1人				0人
平成6年	6人				0人
平成7年	6人				
平成8年	7人				
平成9年	16人				
平成10年以降	183人				
投与年不明	161人	52人	92人	0人	9人
合計	1,758人	983人	218人	7人	45人

※「特定フィブリノゲン製剤及び特定血液凝固第 IX 因子製剤による C 型肝炎感染被害者を救済するための給付金の支給に関する特別措置法」に規定する製剤